

稲垣第一生命ホールディングス社長、海外メディア特派員に語る  
第4回「Japan Business Update」

開催日：2018年9月6日(木) 場 所：第一生命保険  
参加メディア：ウォール・ストリート・ジャーナル(米)  
フランクフルター・アルゲマイネ(独)  
ザ・ストレーツ・タイムス(シンガポール)  
台湾電視公司

経済広報センターでは、会員企業・団体による海外への情報発信を支援するため、日本外国特派員協会(FCCJ)と協力し、在京外国メディア特派員を招いた懇談会「Japan Business Update」シリーズを開催している。その4回目が9月6日、東京・日比谷の第一生命で開催され、稲垣精二第一生命ホールディングス社長がウォール・ストリート・ジャーナル(米)、フランクフルター・アルゲマイネ(独)、ザ・ストレーツ・タイムス(シンガポール)、台湾電視公司などの特派員9名を迎えた。

稲垣社長はまず、創業者の矢野恒太氏が掲げ、連綿と継承してきた経営理念を説明。災害混乱時における確実な契約者対応、異業種や地方自治体との連携、またビッグデータなどの最新ITテクノロジーを駆使した多様な商品開発、さらには米国やアジアなどでの事業展開など、同社の最新事情について詳細な資料に基づくプレゼンテーションを実施した。これに対して、特派員から活発に質問が出され、懇談会は予定の時間を越えて終了した。



説明する稲垣社長

参加者はその後、稲垣社長の案内により、敗戦時に連合軍最高司令官総司令部(GHQ)が接收し、マッカーサー元帥の執務室として使用された後、第一生命への返還後もほぼ当時のままの姿で保存されてきた「マッカーサー記念室」を見学。マッカーサー元帥の執務の様子などの説明を受けるとともに、同社の歴史を語るさまざまな史料に触れ、強い関心を示した。

以 上